

令和3年度 事業報告書

I 保存普及事業

(1) 鉄道遺産等普及事業

明治26年(1893)横川～軽井沢間に官設鉄道が開通して以来育まれてきた鉄道文化遺産は、めがね橋や旧丸山変電所などの重要文化財だけではなく、ED42やEF63等の電気機関車、レンガ造のトンネルや橋梁が当該地域には数多く残されている。

特に急勾配の横川～軽井沢間だけを運行していたEF63形電気機関車は碓氷峠鉄道文化むらに4両動態保存されており、全国から鉄道ファンが運転体験に訪れている。また、全国から集めた数多くの貴重な鉄道車両が展示されており、これらをあわせて後世に伝える保存活動を続けていくことが重要である。

①EF63運転体験事業

☆学科・実技講習 毎月第3土曜日に実施。

「12回実施 57名(内女性2名)」

☆検定合格者に講習修了証交付後、指導機関士による保存運転線区間往復
約800mの実車運転体験。

☆運転体験 1日最大11名「318日実施 延べ 3,239名」

②展示車両の保存活動

☆屋外展示車両保存整備

- ・一般ボランティアによるキハ35 901号機塗装等作業
- ・JR高崎支社、鉄道OB会によるEF80 63号機塗装作業
- ・登録ボランティアによる清掃、塗装作業等(月1回)
- ・職員による塗装、車内補修作業

③EF63形電気機関車4両の点検整備

☆動態保存機のため、職員による点検整備を行った。

(2) 情報発信事業

①碓氷峠を紹介する資料の発行・販売

歴史と自然の豊かな碓氷峠を広く紹介するための資料とするとともに碓氷峠(アプトの道)を散策するガイドブックとしても役立つ案内及び説明資料の発行を行った。

「碓氷線絵地図」B5版16ページ 「33冊販売」

②碓氷峠鉄道文化むらをより楽しんでいただく為、碓氷線の歴史と展示車両を紹介した冊子の販売

・展示車両BOOK

碓氷峠鉄道文化むらの展示車両やジオラマの車輛を詳しく紹介した冊子の作成。小学生以下がターゲットで、自分で記入する欄や記念スタンプを押すスペースを設けた。

「124冊販売」

・碓氷峠鉄道文化むら「たんけんノート」

碓氷峠鉄道文化むらの案内図と碓氷線の歴史をわかりやすく解説した冊子で、小学生の自由研究ノートとして活用できる。「15冊販売・51冊配布」

③ホームページやSNSによる情報提供

前年に引き続きホームページやSNSを利用し、碓氷峠鉄道文化むら・碓氷峠の森公園交流館「峠の湯」・碓氷峠くつろぎの郷コテージ・財団の状況やイベント等の情報を提供した。

(3) 交流事業

①第23回碓氷峠紅葉の俳句大会の開催

碓氷峠は古来より、紅葉の美しさでも知られ、唱歌「もみじ」の作詞の場でもある。その峠の四季の美しさを俳句で表現することにより、峠の自然並びに歴史などについて理解を深めてもらう。

俳句大会実施日 新型コロナウイルス感染症の影響により応募句のみでの開催となり、応募者全員に投句冊子を送付した。

応募句総数 127名 249句

②冬期ふれあいイベントの開催

碓氷峠の森公園を会場にイルミネーションを点灯し地域住民及び施設利用者等のふれあいの場を提供した。

開催期間 11月20日(土)～1月10日(祝・月)

③碓氷峠等に関連する各種事業への協力

関係機関等で実施する碓氷峠等に関わる諸事業に協力した。

○第24回碓氷路交通殉難者慰霊祭

④ ○70歳以上の高齢者を対象に、碓氷峠の森公園交流館「峠の湯」熟年割引優待券「入館料(3時間)300円」を配布。(恵みの湯との共通券)

○市内居住全世帯へ世帯別割引優待券「入館料(3時間)大人400円・小人200円」10枚を配布。

⑤矢の沢川親水公園管理事業

☆ 草刈り・ゴミ拾い等の清掃を6回実施。

⑥くつろぎの郷体験事業 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⑦安中市地域おこし協力隊員の受入

令和3年10月1日～ 男性1名

II 公共施設の管理運営事業

(1) 碓氷峠鉄道文化むら管理運営事業

- ①「資料館・展示館・屋外展示場及び付帯施設等」の適切な管理運営の実施。
 - ☆ 展示車輛及び展示資料などの適切な管理運営の実施。
 - ☆ 園内施設及び設備等の点検修理。
 - ☆ 園内及び駐車場・バス等乗務員休憩室の清掃（毎日）等の実施。

- ②トロッコ列車「シェルパくん」の運行管理事業
鉄道文化むらからとうげのゆ駅間に園内遊具としてトロッコ列車を運行し、両施設利用及び碓氷峠周辺の観光の促進を図る。
 - ☆ 12月から3月中旬までの期間は入園者等の状況により運行。
 - ☆ 3月下旬から11月までの期間は土曜日・日曜日・祝日に1日5往復の運行。但し、春休み・夏休み・ゴールデンウィーク期間は毎日運行
「119日 1,158便運行 43,387名乗車」

- ③2フィート蒸気機関車・DL機関車「あぶとくん」の運行管理事業
 - ☆ 1日13回の運行（午前6回・午後7回）

- ④ミニSL・ファミリー列車の運行管理業務
 - ☆ミニSL【午前9時より10分間隔で毎日運行
（12時10分～13時10分の間は除く）】
 - ☆ファミリー列車【ミニSL運行線を使い土曜日・日曜日・祝日の12時10分～13時10分の間運行を行う。】
但し、春休み・夏休み・ゴールデンウィーク期間は毎日運行

- ⑤園内周遊遊具ポッポさんの運行管理業務
 - ☆ 1日7往復、鉄道資料館前からあぶとくん・ミニSL乗り場前を運行。

- ⑥碓氷峠鉄道文化むらファンクラブ「友の会」の運営
 - ファンクラブ有効会員数（令和4年3月31日現在） 291名
 - 会報誌の発行 6月・9月・12月・3月の4回発行

- ⑦子供ファンクラブの運営
 - 年会費1,000円で、文化むら入園料・園内遊具の乗車料・峠の湯入館料（3時間）が無料になる子どもファンクラブの運営を実施。
令和3年度新規入会者数 175名（内 男子135名 女子40名）

⑧碓氷峠鉄道文化むらサポーターズ制度の創設

碓氷峠の鉄道の歴史等(EF63形電気機関車の動態保存・旧信越線の線路、展示車両等)を永く残し、伝えていくための支援を要請した。

☆EF63形電気機関車サポーター(一口 10,000円)

2口 20,000円

☆トロッコ線サポーター(一口 5,000円)

1口 5,000円

☆使途を特定しない寄付等

8人(含1団体) 229,000円

総額 254,000円

⑨EF63形電機機関車シミュレーター管理・運営

冬期は雪景色にするプログラム変更を実施。

(2) 碓氷峠の森公園交流館【峠の湯】管理運営事業

①交流館【峠の湯】の適切な管理運営の実施。

☆運営事業の実施。

☆施設及び設備等の点検修理の実施。

☆各種イベントの開催

②碓氷峠の森公園管理業務

公園内の適切な管理運営を実施。

☆草刈り及びゴミ拾い等の実施。

☆樹木等の剪定の実施。

③屋外公衆トイレ管理業務。

公衆トイレ(東西2箇所)の清掃等の管理業務の実施。

(3) 碓氷峠の森公園「くつろぎの郷」管理運営事業

①宿泊滞在施設「コテージ7棟」の適切な管理運営の実施。

②体験実習館並びに屋内交流広場・東屋の適切な管理運営の実施。

③施設及び設備等の点検修理の実施。

④施設内の除草・樹木等の剪定・花壇への花植え等を実施。

⑤体験教室等、安中市関連行事の受入協力。

(4) 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第三十四条第二項の一に基づく
附属明細書 (事業報告の内容を補足する重要な事項)

①短期借入金処理(前年度発生借入金)について

「短期借入金 20,000,000 円 (令和4年3月25日返済期限)」は、群馬県信用組合横川支店に預け入れてある基本財産を取り崩し返済した。

②運営資金が不足したため、安中市に運営のための費用負担を求めたが応じてもらえなかったため、やむを得ず理事会に諮り議決を以て基本財産を取り崩した。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産 定期預金	90,000,000	0	80,000,000	10,000,000

※表中「当期減少額」に①の借入金返済額 20,000,000 円も含まれる。

令和3年度において経常収益が著しく減少したため、安中市へ委託料等のお願いをしたが、基本財産を取り崩し赤字補填するよう指示があったため、基本財産 80,000,000 円を取り崩した。この結果、当期一般正味財産総減額は、マイナス 64,799,456 円となり、正味財産額は 22,133,775 円まで減少した。令和4年度においては委託料が安中市から支払われる見込みだが、継続組織の前提に重要な影響を及ぼす可能性がある。

今後は碓氷峠の森公園の管理運営に関する基本協定書第7条に記載されているとおり、不足金については年度ごとに年度協定を締結し、安中市へ請求していく。また、年度途中に不足が出る可能性がある場合の資金調達についても、安中市へ求めていく。管理・運営を行う3施設については、売上向上のための努力を続けていく。

③碓氷峠鉄道文化むら園内遊具 SL あふとくんが経年劣化等により運行できなくなったため安中市に修理を求めたが実現できなかったため、修理のためクラウドファンディングで資金を募り、13,725,500 円の支援金が集まった。手数料の約 1,510,000 が差し引かれ、約 12,200,000 円の収入となり、修繕費に 10,010,000 円、返礼品に約 1,260,000 円が発生した。

収入科目 雑収入

支出科目 文化むら運営費 修繕費

④令和2年に日本政策金融公庫より、新型コロナウイルス感染症特別貸付として、無担保で長期借入金として 30,000,000 万円を借入れた。現在は利息のみの支払いとなっており、借入金の返済は令和7年度から始まる。長期借入金に対する利息 131,992 円は、経常外費用として処理計上した。